

『古代アメリカ』2, 1999, pp. 97-101

<書評>

青山和夫・猪俣健著

『メソアメリカの考古学』

東京：同成社 1997年

211+35頁、定価2,500円

佐藤悦夫（富山国际大学）

今まで、メソアメリカの考古学について書かれた日本語の概説書あるいは翻訳本は多くない。それら中で代表的なものを紹介すると、マイケル・コウの『メキシコ』と『マヤ』は2冊を合わせるとメソアメリカ全地域をカバーするが、日本語版はCoe 1962及び1966の翻訳であり、現段階では記述内容がかなり古くなっている。大井邦明 1985は、欧米の研究者とは異なる独自の視点でメキシコ中央高地の古代史を再構築した本である。また、八杉佳穂 1990は主にマヤ文字や暦の研究からマヤ文明を記述している。ジェレミー・サブロフ 1998は1960年以降の新しい考古学の理論と調査戦略により解釈されたマヤ文明像を描き出している。

本書は、メソアメリカの石器時代からスペイン人による征服まで記述するが、「メソアメリカのあらゆる文化を羅列するより、主要な古代文明に焦点をしづることにした」(p. 2)と著者が述べているように、メソアメリカ全体の文化史を詳細に扱ったものではない。

それぞれの章について紹介すると「序章」では、メソアメリカの定義、自然環境、旧大陸の諸文明と比較したメソアメリカ文明の特色および時代区分について概観している。時代区分に関しては、下記に示すように従来の伝統的な時代区分を採用している。

石器（前10000-前7000年）	：人類の進出から狩猟採集に依存した時代。
古期（前7000-前2000年）	：農耕開始から定住村落の形成まで。
先古典期（前2000-300年）	：土器が出現し農業を基盤とした定住村落が定着し神殿をもつ都市文明が限られた地域で成立した時代。前期（前2000-前1000年）、中期（前1000-前400年）、後期（前400-300年）に細分。
古典期（300-900年）	：神殿をもつ都市文明が各地で興亡した時代。前期（300-600年）、後期（600-900年）に細分。
後古典期（900-1500年）	：トルテカ文明からスペイン人による征服まで。前期（900-1200年）、後期（1200-1500年）に細分。

第1章「先土器時代」では、石器と古期の両時代を取り扱っている。人類がベーリンジアを越えて新大陸にわたり、トウモロコシ栽培を経て定住村落を形成するまでの経過を要約している。メソアメリカではこの時代の資料が乏しいこともあり、かなり簡略的に記述されている。

第2章「文明の形成期」においては、農耕定住村落の定着と土器の出現、メキシコ湾岸南部の先古典期文化、メキシコ湾岸南部以外の地域の先古典期文化を記述する。この時代オルメカ文明が形成

される時代（先古典期前期末）であるが、著者はメソアメリカ全域にわたる美術様式としてのオルメカとメキシコ湾岸南部の先古典期文化としてのオルメカを区別して論じ、湾岸地域の社会が他地域と比較してかなり進んでいたことを認めるものの、その地域がメソアメリカ全域に広がるオルメカ様式の中心地であることには疑問を呈している。

第3章「モンテ・アルバン」においては、メキシコのオアハカ地域にあるサポテカ文明の中心地であるモンテ・アルバンの先古典期中期から後古典期にわたる起源から衰退にいたる過程及びテオティワカンとの関係が説明される。記述内容は、遺跡の建造物や石彫等の説明に偏ることなく、盆地全体の人口の推移や生業及び社会構造の変遷について言及している。

第4章「テオティワカン」においては、3章と同様に起源から衰退までの流れをテオティワカンの時期区分に沿って記述される。また、4節「テオティワカンとメソアメリカ他地域との交流」ではメキシコ中央部、グアテマラ高地及び太平洋岸、メキシコ湾岸、マヤ低地等で出現するテオティワカン的要素を検討する。

第5章「マヤ文明」では、マヤ低地における先古典期中期の農耕定住村落の出現からマヤ文明の起源、そして古典期マヤ文明の実態及びマヤ文明の衰退について説明されている。この章は、著者自身のフィールドワークのデータ等も盛り込まれ本書の中で最も記述が豊富な章である。また、従来の概説書に見られる遺跡ごとの解説は無く、当時の社会組織や政治体系等について個別の遺跡のデータを引用しながら検討している。また、「センター間の繁栄と抗争」では、リンダ・シーリー等の碑文学者によって研究が進められたマヤ文字の解読データに依拠しながらそれぞれのセンターの王朝史を記述している。

第6章「古典期終末期と後古典期」においては、テオティワカン崩壊後のメキシコ中央部、メキシコ湾岸部、マヤ低地における古典期終末期から後古典期前期の様相を概観し、次に後古典期後期に属するアステカ帝国、オアハカ、マヤ低地が説明され、最後にスペイン人による征服が記述される。

本書の基本構成は、メソアメリカの時代区分に沿って章が構成され、それぞれの時代について各地域ごとの記述を行うという形をとっている。しかし、3章、4章、5章においては、メソアメリカにおける主要な文明に焦点を絞り、時代区分にとらわれず、文明の発生から衰退までのプロセスを記述する形式をとっているので、それぞれの文明を大局的に捉えることが可能である。このように地域的に多様性のある古典期の諸文化については、時間単位で区切るよりも地域単位でまとめる方法が有効である。

本書の記述内容は、網羅的に個々の遺跡や文化要素を説明するのではなく、考古学データから解釈されるところの当時の社会の実態あるいは社会の変化の説明に焦点を当てている（資料1参照）。また、複数の学説が存在する場合は、著者自身の見解を含めそれぞれ紹介している。現在の研究水準を提示することにより、今後メソアメリカ考古学において解決されなければならない問題点、調査の不足している分野も明確になる。

参考文献では、213の文献が引用されており、その中で80年代以降の文献は158あり、新しい遺跡調査のデータや研究成果が充分盛り込まれている（資料2参照）。特にマヤ文明に関しては、引用した文献の半分以上が90年代の文献であり、近年調査研究の発展の著しいこの分野での成果が本書に反映されている。

以上のように本書はメソアメリカ考古学の入門書というよりは、ある程度メソアメリカの諸文化の基本的な内容を理解した人が、最新の理論や解釈を知り、今後の研究の方向性を探るための概説書である。

参考文献

大井邦明

- 1985 『消された歴史を掘る：メキシコ古代史の再構成』 平凡社
 コウ、マイケル・D
 1975a 『メキシコ：インディオとアステカの文明を探る』（寺田和夫・小泉潤二 訳）学生社
 (Coe, Michael D. 1962 *Mexico*. Thames and Hudson, London)
 1975b 『マヤ』（寺田和夫・加藤泰建 訳）学生社
 (Coe, Michael D. 1966 *The Maya*. Thames and Hudson, London)

サブロフ、ジェレミー・A

- 1998 『新しい考古学と古代マヤ文明』（青山和夫訳）新評論
 (Sabloff, Jeremy A. 1994 *The New Archaeology and the Ancient Maya*, W. H. Freeman,
 New York)

八杉佳穂

- 1990 『マヤ興亡：文明の盛衰はなにを語るか？』 福武書店

資料1：『メソアメリカの考古学』における記述項目

序章 (7^章 : 青山)

- 1 自然環境
- 2 古代メソアメリカ文明の特徴
- 3 時代区分

第1章 先土器時代 (15^章 : 青山)

- 1 最初のアメリカ人—石器
- 2 農耕の起源と発展—古期
 - トウモロコシ栽培の起源
 - テワカン盆地
 - オアハカ盆地
 - 古期の生業と定住村落の発生—その多様な展開
 - メソアメリカと西アジアにおける農耕・牧畜との比較

第2章 文明の形成期 (32^章 : 猪俣)

- 1 農耕定住村落の定着と土器の出現
 - 村落社会の発生と定着
 - メソアメリカ最古の土器群
 - 社会階層の萌芽

- 2 オルメカ文明
 - メキシコ湾岸南部
 - サン・ロレンソとオルメカ前期
 - ラ・ベンタとオルメカ中期・後期
 - トレス・サポテスとオルメカ終末期
 - 3 他地域の先古典期文化
 - メキシコ中央部とグレーロ州
 - オアハカ盆地
 - チアパス州以東
 - 4 オルメカ文明とは何か
- 第3章 モンテ・アルバン (19ページ：青山)
- 1 モンテ・アルバンの起源
 - 2 オアハカ盆地の社会・文化変容
 - 3 モンテ・アルバンの発展
 - 4 テオティワカンとの交流
 - 5 モンテ・アルバンの衰退
- 第4章 テオティワカン (33ページ：青山、猪俣)
- 1 テオティワカンの起源
 - 2 テオティワカンの発展
 - 3 テオティワカンの繁栄
 - 4 テオティワカンとメソアメリカ他地域の交流
 - テオティワカンからの資料とメキシコ中央部長距離交易を巡る議論
 - カミナルフユ、グアテマラ太平洋岸、マタカパンマヤ低地
 - 5 テオティワカンの衰退
- 第5章 マヤ文明 (68ページ：青山、猪俣)
- 1 先古典期—マヤ文明の起源
 - ジャングルの中の大遺跡—マヤ低地における発展
 - マヤ地域南部とマヤ文字・美術様式の発達
 - マヤ文明の起源と先古典期末期の変動
 - 2 古典期マヤ文明
 - マヤ文字と暦
 - 都市と農村
 - 生業
 - センターの繁栄と抗争
 - 統治機構と権力構造
 - 交換の意味
 - 3 古典期マヤ文明の衰退
 - 社会変動の推移
 - 古典期マヤ文明衰退の要因

第6章 古典期終末期と後古典期（35°-ジ：猪俣）

- 1 メソアメリカの大変動—古典期から後古典期への移行
 - テオティワカン崩壊期のメキシコ中央部
 - トゥーラの発展
 - メキシコ湾岸部
 - マヤ地域
 - 古典期終末期の民族移動
 - 2 アステカ帝国
 - 3 後古典期のメソアメリカ
 - オアハカ
 - マヤ地域
 - 4 スペイン人による征服
-

資料2：使用文献の年代別分類

	1990年代	1980年代	1970年代	1970年以前	Total
序章	3	1	0	0	4
第1章：先土器時代	7	7	8	3	25
第2章：文明の形成	9	10	1	2	22
第3章：モンテ・アルバン	2	4	2	0	8
第4章：テオティワカン	20	15	8	3	46
第5章：マヤ文明	41	22	11	12	86
第6章：古典期終末期と後古典期	5	12	2	3	22
Total	87	71	32	23	213